

飯田市上久堅地区

～ 集落単位を超えた地域ぐるみでの防護柵設置 ～



飯伊野生鳥獣被害対策チーム

防護柵設置までの経緯

H17年11月	上久堅中山間地域等直接支払事業推進会議発足
H18年 2月	平成18年度事業の集落要望集約
4月	鳥獣害対策(シカ被害)を重点事業として決定 防護柵の先進地を視察し、設置ルートの検討に入る
H19年 4月	金網フェンス取扱メーカーの説明会開催(コンペ)
6月	平成19年度鳥獣害防止対策事業(国庫)を活用して 学習会を開催(計3回)
7月	製品およびメーカーを決定し、施工基準価格積算
8月	設置延長11.5km、総工事費4,200万円となる
10月	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金に申請
H20年 4月	交付対象に決定
9月	施工着手
H21年 1月	完成

製品の検討(コンペ)



防護柵設置までの経緯

H17年11月	上久堅中山間地域等直接支払事業推進会議発足
H18年 2月	平成18年度事業の集落要望集約
4月	鳥獣害対策(シカ被害)を重点事業として決定 防護柵の先進地を視察し、設置ルートを検討に入る
H19年 4月	金網フェンス取扱メーカーの説明会開催(コンペ)
6月	平成19年度鳥獣害防止対策事業(国庫)を活用して 学習会を開催(計3回)
7月	製品およびメーカーを決定し、施工基準価格積算
8月	設置延長11.5km、総工事費4,200万円となる
10月	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金に申請
H20年 4月	交付対象に決定
9月	施工着手
H21年 1月	完成

学習会での被害マップ作り シカの被害が顕著



農山漁村活性化プロジェクト支援交付金

事業主体： 飯田市上久堅地区有害鳥獣対策協議会

事業費： 当初44,625,000円（国庫補助 21,000,000円）

事業内容： 鳥獣被害防護恒久柵の設置

ワイヤーメッシュ製、延長=11.5km、高さ=1.9m

受益総面積=1,721ha

現地ルート検討



現地ルート検討



防護柵設置位置図

(縮尺 1:25,000)



防護柵の設置状況(林内)



防護柵の設置状況(林道沿)



上下段で ワイヤーメッシュの構造が異なる



この取組での特筆すべき点、 今後の課題

- 集落単位を超えた広域的かつ自発的な取組
- 「護る」だけでなく「わなで獲る」ことも実施
- 防護柵は長距離で一部は山中に設置したため、今後の継続した維持管理体制の構築
- 柵周辺の樹木については、伐採を継続的に実施していく予定(柵の破損予防)
- 扉通過の際における確実な「扉」締りの徹底(入山者や狩猟者への周知理解)
- 動物の行動域の変化による周辺地域への影響

高森町牛牧地区

～ 山麓の果樹団地における緩衝帯と電気柵を
組み合わせた集落ぐるみ対策～

- H17～ 緩衝帯整備を実施
- H20年3月 集落学習会を開催
- H20年度 鳥獣害防止総合対策事業申請
電気防護柵 570m
- H20年度 野生鳥獣被害総合対策事業
電気柵 200m

緩衝帯整備事業を実施

- 山際に広がるリンゴを主体とした果樹園では以前からサルとイノシシによる加害が絶えなかった。
- H17から緩衝帯整備事業を実施し、林地での間伐、果樹園と林地境界付近の低木等を整理し、獣(特にサル)が一旦地面に降りる状況を作ること、既設の防護柵と緩衝帯による複合的な被害防止効果を期待。

野生鳥獣被害総合対策 集落学習会の開催 (H19.3.10)

- 信州大学農学部 泉山准教授を講師に招き、実際に集落内のほ場を歩いて巡回し、効果的な対策について検討。
- 隣接する林地の緩衝帯整備が実施済みの状況の中、泉山准教授から指導を受け、獣の通路の再点検、既設のトタンや電柵の設置方法の改良等について意見を交わした。

現地検討会

集落を住民の人と一緒に歩き、獣の通路を再点検



ほ場横の雑木林

敵はこういった場所からほ場に飛び込む



イノシシよけのトタン板と電柵の設置状況確認



現地の状況を踏まえた上での学習会

現状の対策について改善の余地あり



国庫事業にて電気防護柵を整備



県事業により電気柵を追加して整備 国事業着手後にウイークポイントを発見



反省点と今後の課題

- 加害獣の正確な侵入経路の把握・予測とそれに基づく防護柵の設置(事業着手後に加害獣の行動域が変化)
- 緩衝帯整備をした林地の機能の維持(継続的な緩衝帯整備)
- 電気柵の管理